

福島市小鳥の森通信

しじゅうから

小鳥の森で観察してみよう 119

アオゲラ (オス)

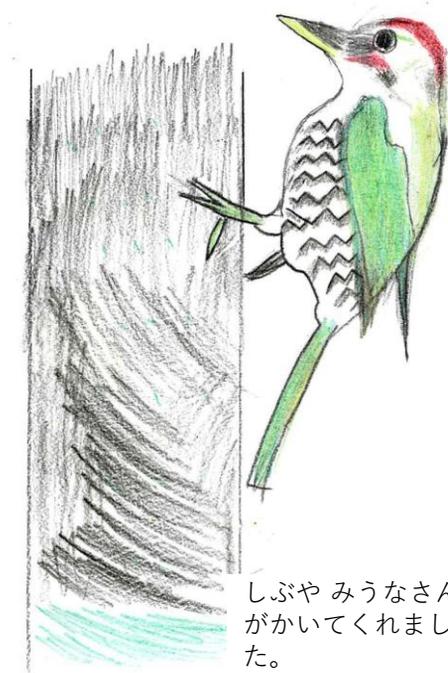
分類：キツツキ目 キツツキ科
 大きさ：29cm (ハトより少し小さい)

福島県内で見られるキツツキの仲間では最も大きい。「アオ」は青色ではなく、緑色のこと。「ゲラ」とはキツツキの呼び名。

春からの巣作りの季節には、ピョーピョーと大きな声で鳴きながら空を飛びます。木の幹に垂直に止まり、体を立てたまま器用に上り下りして、木を突き巣穴をあけたりエサを取ったりして子育てをします。

小鳥の森で見られる場所と時期

- ・1年を通して、園内全域で見ることができます。



しぶや みうなさんがかいてくれました。

2月 森のココに注目

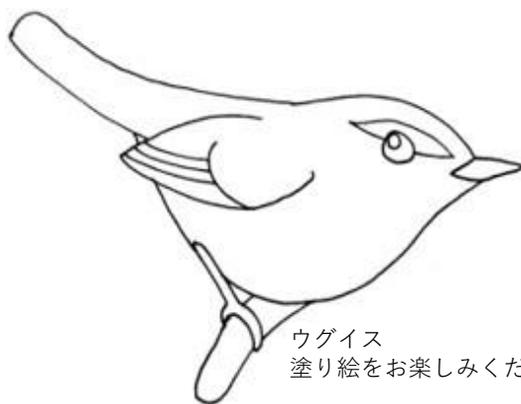
声で知る「森の中の春の訪れ」

2月になると寒かった冬もそろそろ終わり。いよいよ春も間近になってきます。

さて、皆さんはどのようにして「春」を感じていらっしゃいますか？

今回は耳を使い、生きものの声をたよりに春の訪れを感じる方法をご紹介します。

野鳥をはじめ生きものたちは、春になると繁殖(子育て)のために秋～冬とは違った声で鳴き始めます。小鳥の森では毎年2月の下旬になると「ウグイス」がホーホケキョとおなじみの声で鳴きます。池からは、「ニホンアカガエル」の声も聞こえてきます。どちらもオスがメスと呼ぶために鳴くプロポーズの声なのです。にぎやかになる春、待ち遠しいですね。



ウグイス
塗り絵をお楽しみください。



ニホンアカガエルのたまご

雪で埋まった小鳥の森

昨年暮れから降った雪で、多い時で40cmほどの積雪になりました。

坂道の上にあるネイチャーセンターまでの道を作るため、市が手配した除雪機をはじめスタッフ総出で雪かきを行いました。私たち人間にとって少し厄介な雪ですが、野生の生きものたちにとってはさらに大変な存在だったようです。熱心にエサを探す様子が見られました。

ネイチャーセンター前の給餌台には、冬鳥のアトリやシロハラ、シメなど年末には姿を見せなかった野鳥がやってきました。また、小さなイノシシが雪を掘り、エサを探していたようです。森の中にはまるで耕したかのような跡がありました。（イノシシは基本的に夜行性です。日中は姿を現すことはありません。ご安心ください。）



給餌台にやってきたシロハラ



除雪作業



イノシシのほりあと

スタッフだより

凍らないヒミツ

冬越しする虫たちはいろいろな姿（卵、幼虫、さなぎ、成虫）で寒さに耐えています。例えば、テントウムシは成虫で、アゲハチョウはさなぎで冬を越します。

なぜ、水が凍ったり雪が積もる場所でも彼らの体は凍らないのでしょうか。答えのひとつは冬越しをする場所にあります。枯れた木の皮の下、土や落ち葉の中などで寝ているので、周りのものが保温材となって体が凍らないというわけです。もうひとつは昆虫は寒さを感じると体の中に「グリセリン」という粘り気のある液を作り、それによって凍るのを防いでいます。虫たちの生き残る戦略には驚かされることが多くあります。もうすぐ春、彼らが活動を開始する時期もそう遠くはありません。

レンジャー 増淵 翔太



冬でも凍らないコクワガタ幼虫とコガタズメバチ成虫

散策路閉鎖のお知らせ

カワセミの小径、ホオジロの小径 現在、閉鎖中

カワセミの小径とホオジロの小径では、今年1月～3月の間、森の若がえりを目的とした樹木の伐採と作業道作りの事業（ふくしま森林再生事業）を行っています。一定の年齢に達したコナラやヤマザクラなどを切り、次の世代の樹木が生えてくるための手入れになります。作業中の安全を確保するため、上記2つの小径を閉鎖しております。散策や団体利用などでの小径通行ができません。ご理解とご協力をお願いいたします。



閉鎖中のコース



作業の様子

* 小鳥の森通信「しじゅうから」はホームページでカラー版をご覧になれます。

* 園内の環境放射線量の詳細はホームページをご覧ください。

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター） 開館時間：午前8時30分～午後5時

《入場無料》休館日：毎週月曜日（祝祭日の時はその翌日）

〒960-8202 福島市山口字宮脇98 Tel：024-531-8411 fax：024-534-8800

小鳥の森のホームページ・・・<http://www.f-kotorinomori.org/>

小鳥の森通信「しじゅうから」2022年2月号No.430／企画・発行：福島市小鳥の森／日本野鳥の会ふくしま